

資料タイトル

2016 年 02 月 17 日
乃村研究室 吉田 尚史

1 はじめに

本資料は資料のテンプレートを示した資料である．はじめにでは，本資料の概要や背景を説明する．2 章に箇条書きの例，図の挿入の例，表の例，および参考文献の例について記載している．

2 章

2.1 節

2.1.1 項

章，節，および項の適切な名前を考える．

2.2 箇条書きの例

箇条書きを用いて分かりやすく表現する．

(1) 項目 1

(2) 項目 2

(A) 項目 A

(B) 項目 B

(3) 項目 3

(1) や (2) を別の文字に変えたい場合は，description を使用する．

(問題 1) (問題 1) が発生

(問題 2) (問題 2) が発生

pptファイルをPDFに変換しておくときmakeしたときに勝手にページごとにfigureとして読み込んでくれる.

図 1: よくわかる図その1

表 1: 作業時間の発生頻度

通番	作業時間 (分)	発生回数 (回)	累積割合 (%)
1	120 ~ 150	17	40
2	150 ~ 180	12	67
3	90 ~ 120	7	84
4	180 ~ 210	4	93
5	~ 90	2	98
6	210 ~	1	100

2.3 図の挿入例

図を挿入する際は挿入する図を pdf に変換し, figs フォルダに入れる. また, 使用する図のページに合わせて, project.mk の FIG_PAGES を変更する. 挿入した図を図 1 に示す. 図に対する説明を記載する.

2.4 表の例

表を入れる際は過度に罫線を入れすぎないように注意する. 表の例を表 1 に示す. 表に対する説明を記載する.

2.5 参考文献の挿入例

参考文献を記載する際は bibtex を利用する. mybibdate.bib に参考文献の情報を記載する. たとえば, 先輩の論文 [1] を参考文献として記載する.

3 おわりに

本資料では資料のテンプレートを示した．図表の挿入例や参考文献の例を挙げた．今後は，このテンプレートを基に資料を作成する．

参考文献

- [1] 吉井英人，北垣千拡，乃村能成，谷口秀夫：作業発生の規則性に基づく作業予測手法と評価，情報処理学会論文誌，Vol. 56, No. 2, pp. 543–553 (2015).